

草の実

第69号——2019年1月号

札幌市豊平区平岸4条17丁目6-6
電話 011-817-9080/FAX 011-817-9899
ホームページ <http://www.kusanomikai.jp/>
ブログ <http://ameblo.jp/kusanomikai/>
工房もくHP <http://www.kouboumoku.com/>

あけましておめでとうございます！

昨年さくねんを振り返ってふかえ そして今年ことしにむけて

社会福祉法人草の実会しゃかいふくしほうじんくさみかい 理事長りじちよう 手塚 玄てづか げん

まず胆振いぶりとうぶじしん・東部地震さくねん、昨年いちばんの一番おお大きな出来事できごとだった。草の実くさみ関係かんけいの被害ひがいはほとんど無なかったがいつどこで何が起おこるかわからない、ということを実感じっかんさせられた。平岸ひらぎしの里さとがグループホームりようしゃ利用者の一時避難場所いちじひなんばしょになった。幸さいわいその日の夕方ひゆうがたには電気が回復かいふくしいつもの生活せいかつに戻もどることができた。多くの反省点おおはんせいてん、教訓きょうくんを得えた。法人ほうじんとして災害時さいがいじの対策たいさくはほとんど立たてていなかった。利用者・職員りようしゃしよくいんあんびかくにんの安否確認しよくりようびひんびちくのマニュアルもなく食料・備品の備蓄じしゆてきもしていなかった。でも何とかなんなつた。職員しよくいんは自主的にじしゆてきにどんどん出勤しゆっしんして（当然とうぜん、出勤しゆっしんできなかつた事情じじようの職員しよくいんもいるが）、早い段階だんかいで利用者りようしゃの安否確認あんびかくにんができた。グループホーム利用者りようしゃへの食事は滞しよくじりなく提供ていきようできた。運うんが良よかつた。冬ふゆだったら、日中にちちゆうだったら、停電ていでんが長期ちようきになったら、・・・きつとお手上げてあだっただろう。でも、そんな時ときでも草の実会くさみかいの職員しよくいんは最善さいぜんを尽くしてくれよう。今回こんかい出勤しゆっしんしてくれた職員しよくいんの顔かおを思い浮かおもべるとそう思う。だれにも、動揺どうようや困惑こんわくの表情ひようじようはなかつた。“備えあれば憂うれいなし”なのだがその“備え”そなを活用かつようするのは人ひと。マニュアルや強力きやうりよくな採配さいはいが無くともこれだけやれたのだからこの先さき、何が起おこきても頼たよりになる職員達しよくいんたちだ。だからなおさら災害対策検討会議さいがいたいさくけんとうかいぎでまとめている方策ほうさくを、可能かのうな限り速かぎやかに整備せいびし、いざというときに備えようと思う。

そして2018年ねんの1月がつ、優生保護法ゆうせいほごほうのもと強制的に不妊手術きようせいてきふにんしゆじゆつを受けた女性うが国家賠償こくかばいしょうを求め訴訟そしやうを起こした。衆議院しゆうぎいんで全会一致せいいつで成立ゆうせいほごほうした優生保護法しゆじゆつすうきそ、手術数じちたいを競しやざいった自治体しやざい、謝罪しやざいをしない政府せいふ、この件けんに関わつた関係機関かんけいきかん、関係者かんけいしやを考えるとやまゆり園事件えんじけんと同様どうよう、おぞましいと言える。札幌さっぽろでも提訴ていそした方がいる。DPIでいびーあいが主催しゆざいした集会しゆうかいに参加さんかした。多くの方おおの人権かたじんけんが踏ふみにじられた。これからも見守みまもっていく。

そして、やまゆり園事件えんじけんについて。この2年ねん、草の実会くさみかいの会報かいほうで毎回取り上げてきた。この事件けんに関するいろいろな立場たちばの人の感想かんそうを載のせた。それらをもとにこの事件けんについての議論ぎろんが起こればと思おもつたが、そう簡単かんたんではなかつた。この事件けんを語かたることは容易よういではない。一般的いっぱんてきには“殺人さつじんは許ゆるされない、殺ころされていい命いのちとそうでない命いのちがあるわけではない”というしごく当たり前の

ことが通用しない事件だった。しかも犯人に共感する意見が多くあった。私たちににとっては思ってもいなかった事件だが世間的にはそうではないのかも知れない。凶悪な犯罪は数え切れないほど起こっている。金品のための計画的な殺人も数多い。大企業の計画的な不正もきりが無い。官公庁の障がい者雇用の水増しもそのいい例だ。この国にはすでに人間性が無くなっているのだろうか。“福祉”に生きる私たちの感覚が世間とずれているのかも知れない。でもだからと言って私たちの感性を変えることはできない。

この事件は私たちのいる福祉の世界が生み出した事件、私たちが生み出した事件である。他のなにものかの責任でもない。福祉がこの事の責任をとらない限り、またいつか差別され、虐待を受け、殺される障がい者が生まれる。「私はそんなことはしない」「うちの法人ではそんなことを起こさない」と決意するのは当たり前前で、自分以外、自分の施設以外でもこんな事を二度と起こさせないためどうすべきか考えていく。

7月に発行された創出版の「開けられたパンドラの箱」を読んだ。私はいい本だと思う。植松聖の主張だけでなく、当事者や家族、そして専門家の意見もしっかり載せている。非難は当たらない。ぜひ読んでほしい。

11月10日、DPI主催の障害者基本法改正に向けた

フォーラムに参加した。各政党の国会議員、福祉団体のアピールがあった。その中で、北海道重症心身障害児(者)を守る会の会長太田由美子さんの言葉がしみた。「ひとりでは生きていけない幸せ」と。言い変えたら「人にたすけてもらって生きる幸せ」。逆に言うとなら「一人で生きていけることは幸せなのか」。つきるところ、これこそが人間ということではないのだろうか。どんな人にもこの幸せを感じてもらわねばと思う。どんな人もみな対等ということの根っこではないだろうか。やまゆり園事件を乗り越える為にも、このことは大事なことに感じる。

そして最後に、2018年に「SDGs (エス・ディー・ジーズ、持続可能な開発目標)」を知った。2015年に国連で採択された、地球の社会・経済・環境等についての変革目標。貧困をなくす、飢餓をゼロに、健康と福祉、教育、ジェンダー平等、クリーンエネルギー、不平等の解消、気候変動対策、平和と正義など地球が抱える17の課題とその実現のための179の個別目標。2030年達成を目指している。今まで全く気がつかずにいた。国連で決議された事なので政府を始め、自治体、各種団体、企業が取り組みを始めている。SDGsの根幹には「誰も取り残さない」「一番必要なことから始める」という理念がある。私たちのやっている福祉の事業についてもこのSDGsに即して考えていく必要があるように思う。

2019年、少しでもいい年になることを祈る！

